

## もくじ

- ・ ホレおばさん

# ホレおばさん

げんさく  
原作： どうわ グリム童話

イラスト： かつなが みつとし

へんしゅう  
編集： YellowBirdProject

むかしむかし、とある<sup>くに</sup>国の<sup>ちい</sup>小さな<sup>まち</sup>町に、<sup>ははおや</sup>母親と、  
ふたり<sup>むすめ</sup> 二人の娘が住んでいました。

あね<sup>うつく</sup> 姉の『マリー』は、とても美しくて、<sup>はたら</sup>働き者  
でしたが、<sup>いもうと</sup>妹の『ローズ』は、<sup>たいへん</sup>大変ななまけ者でし  
た。けれども<sup>ははおや</sup>母親は、<sup>いもうと</sup>妹のローズばかりをかわい  
がっていました。というのも、この<sup>ははおや</sup>母親は、<sup>びょうき</sup>病気で  
亡くなった<sup>ちちおや</sup>マリーの<sup>さいこん</sup>父親の<sup>あいて</sup>再婚相手で、ローズは  
その<sup>ははおや</sup>母親の<sup>つご</sup>連れ子だったからです。

<sup>ははおや</sup>母親とローズは、<sup>いえ</sup>家の<sup>しごと</sup>仕事を全てマリーに押し付け  
ていました。<sup>そうじ</sup>掃除に<sup>せんたく</sup>洗濯、<sup>しょくじ</sup>食事の<sup>ようい</sup>用意、<sup>かちく</sup>家畜の<sup>せわ</sup>世話  
まで。

その<sup>ひ</sup>日、マリーは<sup>にわ</sup>庭の<sup>いど</sup>井戸の<sup>まえ</sup>前で、<sup>あら</sup>洗い物をして  
いました。マリーが<sup>しごと</sup>仕事で使っている『糸巻き棒』を  
<sup>あら</sup>洗おうとした<sup>とき</sup>時、<sup>て</sup>つい手を<sup>すべ</sup>滑らせて、<sup>いとま</sup>糸巻き棒を<sup>ぼう</sup>井戸の  
<sup>なか</sup>中に<sup>お</sup>落としてしまったのです。



5

「大変！ どうしましょう、あれを失くしたら、お母様に  
しかられてしまうわ・・・」

マリーは井戸の中をのぞき込みました。井戸の底は  
真っ暗で、なにも見えません。マリーは糸巻き棒を拾い  
に、井戸の底に降りていきました。

「まあ、信じられない・・・これはいったいどうい  
うこと!?!」

なんと井戸の底は、不思議な世界につながっていま  
した。マリーが立っているのは、辺り一面、きれいな花  
が咲き乱れる、広い野原でした。時折吹くさわやかな  
風が、マリーのほほをやさしくなでました。

「えっと、どうしましょう・・・とりあえず、糸巻き棒を  
探さなくちゃ」

